

◇ スマートウェルネス住宅について ◇

「スマートウェルネス住宅」という言葉が少しずつ浸透してきています。「省エネ、快適で長生き出来る住宅」という意味合いで使われていますが、ここ最近では国を上げてスマートウェルネス住宅を普及させようと新築中古問わず様々な施策が進んでいます。

～環境問題・エネルギー問題～

人口の多い新興国の急激な経済発展によって環境破壊が進む中、日本は先進国として環境を守る技術開発を進め、お手本となる必要があります。

しかし3.11による原発事故で、技術開発の大幅な方向転換が必要となりました。今後原発に代わる新たな発電技術を構築することはもちろん、住宅を高性能化することでエネルギー使用量を減らし、環境問題、エネルギー問題双方を改善しなくてはなりません。

～社会保証問題～

世界一の長寿国と言われる日本ですが、平均寿命から健康でいられる年数を引くと、男性で9年、女性で12年の開きがあるとの報告があります。

大きな原因の一つとして住宅内の温度差が上げられます。温度差による疾患で亡くなる方は交通事故よりも多く、そのことが原因で要介護となってしまう方も高齢化が進むにつれ増えているのです。

高齢化により今後も増大する社会保障費を抑えるには、住宅性能を向上させ、住宅内の温度差を軽減することで健康寿命を延ばしていくことが大変有効な方法となります。

～高気密高断熱の注意点～

上記のような問題を抱える我が国にとって、全てを一度に解決できる施策として「スマートウェルネス住宅」は注目されています。

この考え方は大変喜ばしいことですが、高気密高断熱＝スマートウェルネス住宅と考えてしまうには注意が必要です。

高気密高断熱住宅は熱をため込む性質を持っているので、間違った住まい方をしてしまうと、かえってエネルギー使用量を増やしてしまう危険があります。

高気密高断熱住宅は少ないエネルギーで温度を保つことができますが、一度冷え切ってしまうと温め直すのに膨大なエネルギーを必要とします。したがって、高気密高断熱住宅の暖房（冷房もですが）方法は24時間稼働させることが基本となります。逆に言えば、暖房（冷房）を24時間稼働させても省エネと言えるレベルの高気密高断熱性能が必要ということにもなります。

現在のスマートウェルネス住宅の考え方を見ていると「住まい方」についての啓蒙が少ないように思います。

～「ファースの家」の進化～

高気密高断熱性能はもちろん大切ですが、快適で省エネに保つには、暖房（冷房）機器の選定や設置位置、その使い方までをワンセットとして考えなくてはなりません。更に健康を考えるのであれば、室内の湿度も含めた空気環境が大切になります。

「ファースの家」は古くからスマートウェルネス住宅的な考え方を持って進化を続けてきました。「スマートウェルネス住宅」が浸透して行けば「ファースの家」がこれまで辿ったプロセスが生かされる場面が多く出てくると大変期待しています。

「スマートウェルネス住宅」を正しく確実に浸透させていくために「ファースの家」は更に進化を続けて行きます。

(著 福地 智)

孝太の知恵袋

乾電池を復活させる方法

あら、テレビのリモコンの電池が切れたみたいだねえ。え、続きがすぐ見たいって？ せっかちなだねえ。買い置きもないって。そんなときは、こうしてごらん。乾電池を取り出してね、+と-を交互に並べて、手のひらに乗せるんだよ。次に、両手を合わせて、10秒ほど、カシャカシャと擦りあわせてごらん。たったそれだけで、電池の寿命が少し延びるんだよ。擦り合わせたことで、不純物が取り除かれたり、化学反応が促進されるらしいんだけどね。まあ、試してごらん。そうそう、電池が1本しかないときはね、その辺にある手すりとか、金属に擦りあわせてもいいって聞いたよ。